

平成30年度第4回若葉区支え合いのまち推進協議会議事要旨

1 日 時 平成31年3月20日（水）10時00分～11時30分

2 場 所 若葉保健福祉センター3階 大会議室

3 出席者

（1） 委 員 赤間委員、荒木委員、井崎委員、岩澤委員、江口委員、大嶋委員、
小川委員、菊次委員、小出委員、酒井委員、千脇委員、津田委員、角田委員、
鶴岡委員、東田委員、長友委員、錦織委員、縫部委員、畑委員、花澤委員、
日暮委員、布施委員、真鍋委員、山内委員、山崎委員、和田(文)委員

（2） 事務局 富田保健福祉センター所長、石毛社協区事務所長、
鈴木社協区事務所副所長、萩原高齢障害支援課長補佐、
田中高齢障害支援課主査、黒木地域福祉課主査、
加藤地域振興課地域づくり支援室主査 小泉地域福祉課主任主事、
木内高齢障害支援課主任保健師、

4 議 題

- （1） 地区部会活動の中での課題と取組みについて
- （2） 「若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)」についての報告
- （3） その他

5 議事の概要

- （1） 地区部会活動の中での課題と取組みについてグループ討議及び発表を行う。
- （2） 「若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度)」について、田
中主査が報告を行う。
- （3） その他

6 会議経緯

- （1） 地区部会活動の中での課題と取組みについて
○事務局

前回の推進協において、地区部会の委員の皆様に、地区部会活動の中での課題と取り組みを提出していただくようお願いした。

先日開催した運営企画委員会で、それを基に課題を整理し、次の5つの共通課題にまとめることができた。

- 1 中核となっている方の後継者不足
- 2 実動部隊の人員不足
- 3 地区部会活動が地域に浸透していない
- 4 他組織との情報共有不足
- 5 拠点がない地域

今回の推進協では、上記課題についてグループに分かれての意見交換、発表をしていたきたい。

なお、グループ分け及びどのグループがどの共通課題について意見交換をするかについては、事務局の方で決めさせていただいた。

グループ討議

○グループ発表

- 1 中核となっている方の後継者不足

この課題の要因として、役員の高齢化、若手の発掘ができない、後継者のハードルが高い、住民の過疎、社協が理解されていない、退職年齢の高齢化や、ボランティア精神の欠

如や協調性の低下などが考えられる。その対応として、民生委員の協力のもと適材の選択を行う人材発掘のアプローチや、理解しやすい資料の作成や配布を行い、福祉活動のPR活動や啓発活動を行うことが必要であると考えた。

2 実動部隊の人員不足

課題の要因として1点目は、社協や民生委員などボランティア活動の内容を知らない人が多い・魅力が伝えられていないという意見が出た。それに対して先進地域の視察など民生委員やボランティアの意欲を高めるようなことを実施することが必要だと考えた。

2点目として少子高齢化により人口が減り、担い手の高齢化や、後継者が見つからないことが要因である。その対応として、自治会の総会等に民生委員を招待し、活動のPRをしたり、連協の協力を求めることが必要と考えた。

3点目は、自治会長が1年ごとの輪番性のためか、自治会で福祉に対する意識が薄いという要因である。しかしその要因を逆手にとって、地域で自治会長経験の方がどんどん増えてくるという利点として捉え、その中から人材の発掘を行うことができるのではと考えた。また自治会の中で福祉部を設けて、核になる人には継続して活動を行ってもらいたいのではないかと考えた。

また地域の人に、負担にならない程度の短期間・単発の行事にボランティアとして参加してもらい、活動の魅力を知ってもらい、福祉活動に共感をしてくれる方を増やしていくことも必要と考えた。

国が後期高齢などの呼び名を変えることも、高齢者の活動の意欲につながると考える。

3 地区部会活動が地域に浸透していない

地区部会活動は、社会福祉法に規定された地域住民のための住民参加による地域エリアの横断的組織である。地区部会の活動が住民への理解浸透により、ともに思いをつなぎ協力者になってもらうことが必要である。

浸透していない理由としては、努力不足、地域住民に関心のある行事が少ない、町内自治会との協力関係が乏しい、広報・啓発活動が行き届いていない、活動のマンネリ化、市や社協サイドの地区部会活動の位置づけや参加協力の広報不足、会費制度の無理解、自治会が抱える福祉活動に向き合った活動が十分ではないということが考えられる。

その対策として、P R映像の活用、S N S などインターネットの活用などの広報が必要であると考えた。またバザーや防災、認知症講座など人が集まる興味のあるイベントの開催や、多世代、特に子供や、その保護者も巻き込めるような行事の開催を検討していく必要がある。

またその行事の際に、社協の普段の活動をP Rできるような場を設けていく必要もある。

また地区部会主催で自治会や、民生委員との話し合いの場を設けたり、地区部会のP Rとなる好事例を共有する場を設けることも必要だと思う。少しずつでも地道な活動が続けることが、地区部会の活動が地域へ浸透していくこととなると考える。

4 他組織との情報共有不足

地域で地区部会以外の他組織といえば、民生委員・自治会・老人会、NPO団体があげられる。地区部会と民生委員のつながりはあるが、自治会のつながりがうすい地域が多い。また老人クラブやNPO団体との関係作りは難しいという意見が出た。自治会未加入者の増加や、若い世代へ地区部会活動が周知されていないということも、この課題の要因ではないかという意見が出た。また地域で本当に困っている人ほど、情報の把握がしづらいという意見も出た。

この課題の対応として、地区部会の集まりに、自治会の方や、他の組織の方にも参加してもらい、地区部会の活動や情報を知ってもらったり、いきいきサロンなど、地区部会活動の好事例を地域で発表する機会をつくることも必要ではないかと考えた。

若い世代の方への周知として、高校生に地区部会の説明を行ったり、新中学1年生に社協のPR鉛筆を配るなどの活動をしている地域もある。学生の中から、地区部会活動などの福祉活動を知ってもらう事も必要と考える。地域ケア会議を開いている地区も多いが、様々な組織と情報共有ができる地域運営委員会の検討も必要ではないかという意見も出た。

5 拠点がない地域

グループの中で、結・みつわ台地区部会が「拠点がない」という課題を抱えており、他2地区部会はこの点について問題に感じていないことがわかった。その差は何かを中心に話し合いを進めた。まず、それぞれの地区部会の実態として、結・みつわ台地区部会は、3つの中学校区を持つ大所帯であること、他2地区部会は、地域の中でのつながりから、

近隣の小学校や公民館、地域密着型のディサービス事業所を借りることができ、それを拠点としていることがわかった。

この課題の対応として、推進協から市に対して、学校の空き教室を地域の活動団体に貸し出すような、要請や働きかけが必要なのではないかという意見が出た。

また、地区部会が大きすぎると、顔の見える関係が作れないので、結・みつわ台地区も、他地区部会のように中学校区ごとになるように、分割を行うということも検討したほうがいいのではという意見が出た。

若い世代に福祉の考え方が伝えられていない事も、課題の要因であるという意見も出た。その対応として、スポーツ振興会に推進協議会の委員になってもらうことで、地区部会の活動を幅広い世代に知ってもらう機会をつくっていただけるのではないかという意見が出た。

現在拠点を確保できている地区部会も、いつまでもそれが続くとは限らないため、常に拠点としてどのようなところが利用できるかを考えていく必要がある。

また、千葉市では「空家の対策」という事を進めているが、それを「空家の活用」と言葉を変えて、地区部会活動の拠点に活用できればという意見も出た。

また、この推進協議会を様々な方に傍聴してもらえるように、それぞれのセクションから働きかける必要がある。推進協議会がどのような議題を話し合っているかを知ってもらうことが、地域福祉を進めるためにも必要なことである。

○委員長

全体的に感じたこととして、グループ討議で、具体的な解決方法が見えてきた課題もあると思われる。

1の課題について、高齢化することは避けられない事実であるが、民生委員の協力のもと、人材発掘を行ったり、啓発活動を徹底していくことが必要だと感じた。

2の課題について、ボランティア活動の楽しさを伝え、仲間を増やすという事が大切なことだと思う。輪番制である自治会長から、人材の発掘をするというのもとてもいい考えだと思う。高齢者、後期高齢者などの呼び方を変えるという事も、高齢者の意欲につながるの

はないかと考える。

3 グループの発表で、「福祉とは人々の思いをつなぐ地域社会の潤滑油である」といういい言葉をきいた。広報活動としてインターネットの活用なども大事だと思う。

4 の課題として、本当に困っている人の情報は把握しづらいという意見があったが、最近行った地域ケア会議で、他組織が集まり情報共有することで、そのような情報を把握できることを実感した。

5 の課題について、スポーツ振興会との協力や推進協を他の団体の方に傍聴してもらうという意見はその通りだと思う。事務局が積極的に広報していく必要があると思う。

今後もこのような課題を抽出して皆で議論を交わすことはとても重要と感じた。

○委員長

報告事項「若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況（平成30年度）」について、事務局よりご報告をお願いしたい。

○事務局

地域福祉課から地区部会エリアにおける重点取組項目の「各区支え合いのまち推進計画の推進状況（平成30年度）」の提出依頼が来ている。

各地区部会エリアから提出いただいた若葉区支え合いのまち推進計画重点取組項目の進捗状況記録票における30年度の進捗状況、取組実績、今後の課題に基づきまとめ、自己評価も掲載した。

地区部会エリアの委員には確認をいただき、また他の委員には目を通していただきたい。

○委員長

「その他」として何かあるか。

○黒木地域福祉課主査

地域共生社会の実現に向けた地域における取組みのP R映像を作成した。映像は厚生労働省等による審査の結果、優秀賞を受賞した。その映像を見ていただきたい。

○委員長

本日の議題は終了とする。

○事務局

次回の開催日程は6月26日（水）を予定している。

閉会